

## 過去に指定された文化財のご紹介

**令**和元年の終わりから現在(令和3年3月時点)まで、新型コロナウイルスの感染が蔓延し、終息が難しい状況が続いています。文化財に関しても、令和2年度に予定していた調査等が実施できず新たな情報の掲載が困難なため、今号は過去に指定された文化財をご紹介します。

ちゃぎょうのうか いせいかつしりょう

### 茶業農家の衣生活資料 (市指定有形民俗文化財 平成26年7月1日指定)

**中** 富の茶業農家・田中家で長年使用・保存されてきた衣生活の資料です。服物(仕事着・家着・よそゆき・下着・子どもの着物・帯・付属品・防寒用付属品・被り物・履物・風呂敷)と布や糸など計296点ものコレクションです。



茶業農家の衣生活資料(一部)・ハンテン

田中家は、江戸時代の元禄期に入間郡藤沢村から入植した家の分家にあたり、資料の多くは、茶業農家としての基盤が築かれた4代目勝五郎(明治13年生)の代に、製作あるいは購入されたものです。代々にわたって家を守る意識が強い田中家では、常に備蓄を絶やさぬ心得が長い年月の間に<sup>つちか</sup>培われてきました。ポロでも1枚のハギレでも、さらには空の肥料袋や粉袋、残り糸なども捨てずに取っておくよう心がけ、また、昭和30年代中頃まで、裁縫の上手

な勝五郎の妻シチ(明治18年生)が傷んだ野良着を繕い、これを汚れ仕事用として布の形状が維持できる限り使用・保管してきました。

所沢の旧村における、明治期から昭和期の衣生活の様相を映し出す資料として、民俗的、歴史的に高い文化財的価値を持つものと評価されます。また、暮らしの中で、衣料を繕いポロに至るまで使いつくし転用・再生する、より完成度の高い衣料リサイクルが実践されていた様子を伝える資料としても貴重です。

なお、これらの衣生活資料は、市内の中富民俗資料館で展示されています。



**中富民俗資料館** 所在地：所沢市中富 1548-1  
電話：04-2942-4843 (開館日のみ)  
開館日：第1土曜日, 第2・4金曜日, 第3日曜日  
開館時間：午前9時から午後4時30分

# 八雲神社祭礼用具 附 箱十二合 (市指定有形民俗文化財 平成 26 年 7 月 1 日指定)

市内の有楽町に所在する八雲神社の祭礼行事「天王様」に用いられている祭礼道具一式です。明治 13 年 (1880)、浦町 (現在の所沢市有楽町) の糠問屋であった大坂屋惣兵衛から寄進された神剣・四神 (朱雀・青龍・白虎・玄武)・獅子等の祭礼用具を核として、同時期に整備された祭礼幟・太鼓・屏風など計 14 件から成り立っています。明治期の祭礼用具一式が揃い、伝統的な祭祀形態を伝える貴重な文化財であるとともに、かつての所沢のまちばの繁栄期を示す資料としても貴重なものです。

天王様の祭礼は、昔、浦町で疫病が流行した時に「神輿でも出して水でもかけたならば疫病が鎮まるであろう」ということで始まったとの言い伝えがあります。古くは神剣・四神・太鼓・獅子・神輿などが町内を巡行していましたが、現在は神輿のみの巡行となり、神剣・四神・獅子等は八雲神社境内及び拝殿に展示されます。また、かつて 7 月 14 日と 15 日だった祭礼の日取りも、現在は 7 月の第 3 土曜日と翌日曜日に変更されています。

※牛頭天王のこと。疫病を退けると信じられている。

## 神剣と四神



上の写真は、有楽町の天王様 (平成 26 年) で祀られた時の様子です。テント内には神剣と四神、拝殿に獅子と屏風が飾られています。令和 2 年の天王様は、コロナ禍により中止されました。

はたもと うさみけ くがいけ はか  
**旗本宇佐美家・久貝家の墓** (市指定有形文化財 歴史資料 平成 25 年 8 月 1 日指定)

江戸時代初期、所沢市域の多くは旗本が支配しており、その名残として旗本の墓が市内に存在しています。「旗本宇佐美家・久貝家の墓」は、市内山口の瑞岩寺に所在しており、宇佐美家の墓 3 基、久貝家の墓 6 基、石灯籠 1 基が一行に並び、墓所入口の左右に常夜灯が 2 基建っています。石灯籠と常夜灯は、延宝 5 年(1677) 7 月に久貝正方(久貝正世の養子)が久貝正俊と正世の供養のために奉獻したものであり、これにより墓は久貝正方が整備したと思われま  
 す。旗本の地方知行(旗本が直接土地と民を支配した制度)の様子を示す貴重な歴史資料です。



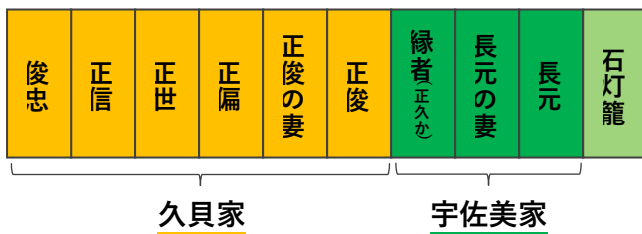
常夜灯

久貝家の墓 6 基は、久貝正俊とその妻(宇佐美長元の娘)及び 2 人の間に生まれた子(久貝正偏・正世・正信)と、久貝正信と宇佐美長歳の娘との間に生まれた子(久貝俊忠)の墓です。『寛政重修諸家譜』によると、久貝正俊は交野郡中宮村(現在の大阪府枚方市)に葬られましたが、岩崎村にも墓石が建立されたものと思われま  
 す。また、正偏・正世・正信・俊忠も他所にも葬地がありますが、母(宇佐美家)との縁で当地にも墓石が建立されたと思われま  
 す。

なお、岩崎村は、宇佐美氏の後に久貝正信が知行し、以降、久貝氏は幕末まで同地を知行しました。

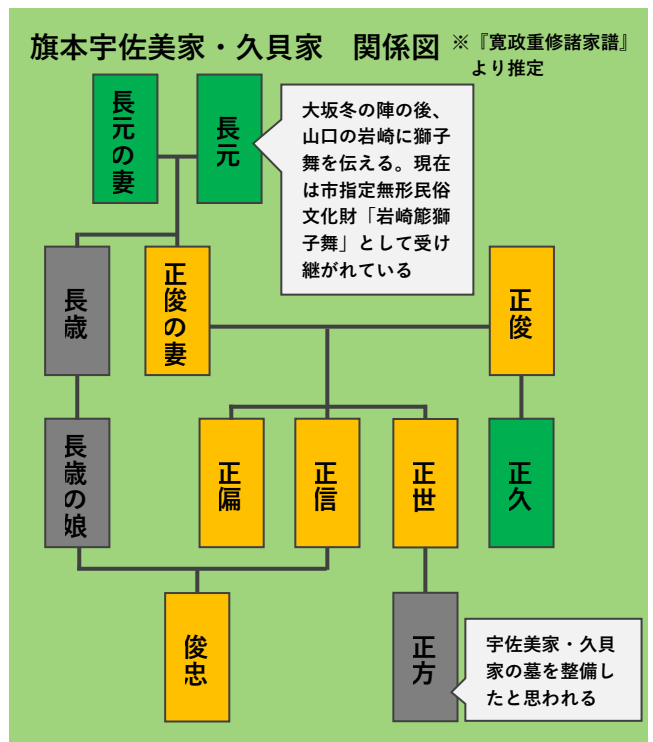


旗本宇佐美家・久貝家の墓



宇佐美家の墓 3 基は、徳川氏の関東入国後、岩崎村を知行したといわれる宇佐美長元とその妻、及び宇佐美氏縁者の墓です。『寛政重修諸家譜』※には、長元は岩崎村の瑞岩寺に葬られたとあります。また、宇佐美氏縁者とされる墓は、宇佐美(久貝)正久と思われま  
 す。正久は久貝正俊の庶長子として生まれ、宇佐美長元の養子になりましたが、後に長元に男子(宇佐美長歳)が生まれたため久貝家へ戻ります。

※…寛政年間に江戸幕府が編纂した大名や旗本の系譜集。  
 文化 9 年(1812)に完成。



はたもとなかねし はか  
**旗本中根氏の墓** (市指定有形文化財 歴史資料 平成 25 年 8 月 1 日指定)



旗本中根氏の墓

**中**根正重の二百回忌にあたる寛政 9 年(1797)9 月 4 日に、子孫の中根まさやすが再建したもので、市内久米の長久寺にあります。

中根正重は、はじめ徳川家康の長男信康に仕えていましたが、信康の死後、家康に仕えて関東入国にお供し、天正 19 年(1591)、久米村に二百石の知行地を与えられました。以降、中根氏は幕末まで同村を知行しました。『寛政重修諸家譜』によると、正重は慶長 3 年(1598)9 月 4 日に伏見において死没し、久米村の長久寺に葬られました。正重の子の中根まさなり以降、代々の葬地は江戸深川の法禅寺に移りますが、長久寺には、後代の中根氏とその奥方や息女などの位牌が納められています。また、中根家は、長久寺本堂の修復や屋根替えなどに際しても費用を寄進しており、長久寺の維持発展に大きな功績を残しています。

はたもとはないし はか  
**旗本花井氏の墓** (市指定有形文化財 歴史資料 平成 25 年 8 月 1 日指定)



旗本花井氏の墓

**慶**長 8 年(1603)、北野村に三百石の知行地を与えられた花井吉高の子、花井庄五郎吉政の墓で、市内小手指南の無量寺墓地内にあります。墓の施主は、吉高の養子である花井庄右衛門吉久です。吉久は、元は旗本浅井七平元吉の三男で、吉高の娘を妻としています。

『寛政重修諸家譜』には、吉政は「多病によりて家督たらず」と記されています。また、「御地頭花井庄右衛門様系図写」(『所沢市史・近世史料 1』所収)によると、吉政は病弱のため知行地の北野村にいて、江戸出仕もままならなかったようです。吉政は、同村の名主であった助右衛門の娘を妻として男子をもうけましたが、万治元年(1658)9 月 27 日に病死しました。花井家の旗本としての勤仕は、吉政に代わり吉久が継ぎ、花井氏は幕末まで北野村を知行しました。

はたもとひさまつし はか  
**旗本久松氏の墓** (市指定有形文化財 歴史資料 平成 25 年 8 月 1 日指定)



旗本久松氏の墓  
左：定佳 右：定弘

**市**内上山口の清照寺に、久松定佳とその子定弘の墓石 2 基が並んで建てられています。久松氏が武蔵国入間郡山口に二百石の知行地を与えられたのは、天正 19 年(1591)定佳の父忠次の時です。以降、久松氏は幕末まで同地を知行しました。

『寛政重修諸家譜』によると、久松定佳は、慶長 5 年(1600)から徳川家康に仕え、大坂夏の陣にもお供します。その後、3 代将軍家光の日光山参詣の折に大押の役を務め、後に江戸城の裏門切手番頭、留守居番、4 代将軍家綱付となります。万治 2 年(1659)11 月 10 日に死没し、堀口村の清照寺へ葬られました。定弘は定佳の次男で、書院番などを務めます。貞享 4 年(1687)10 月 2 日に死没し、父と同じく清照寺へ葬られました。定弘の墓は、墓石の刻銘から定弘の養子である定持が建てたとわかります。